

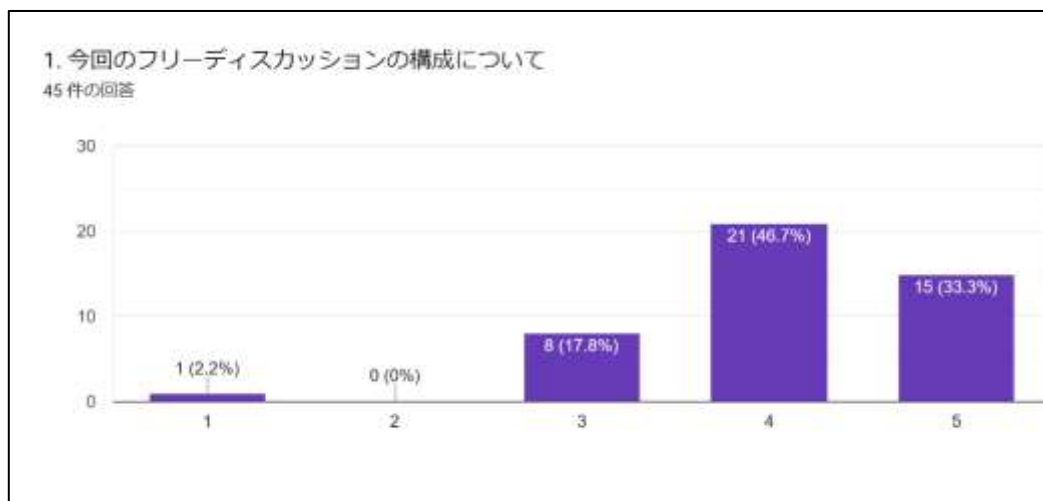
総監フリーディスカッション アンケート結果

本フリーディスカッションの参加者 54 名中、45 名から回答を得た。

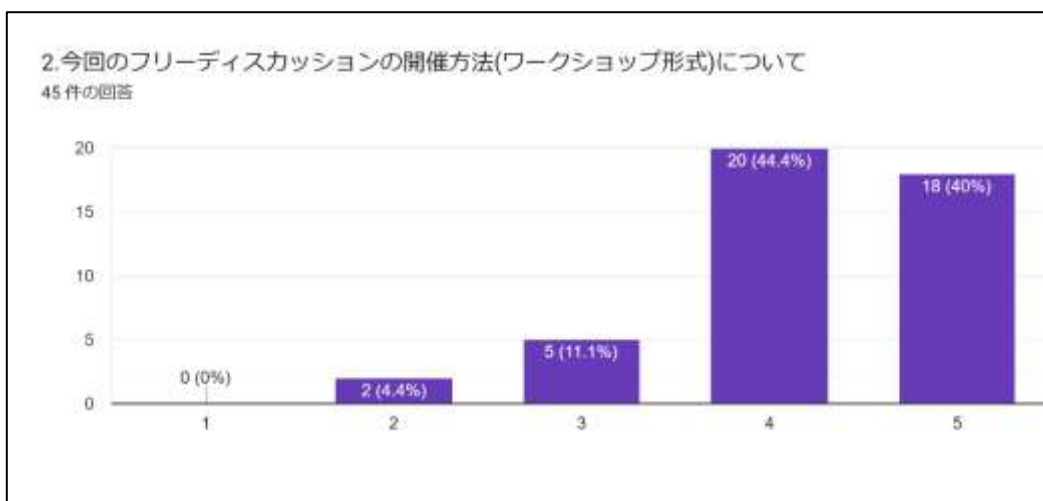
結果は以下の通り、構成、開催方法ともに 8 割以上が満足、「5. 次回ぜひ参加したい」の回答率は 45.5%と高い状況であった。

なお、今回の参加者の年齢構成は、60 歳代 44.4%、50 歳代 22.2%、70 歳以上 15.6%であり、50 歳以上が 82.2%となっている。

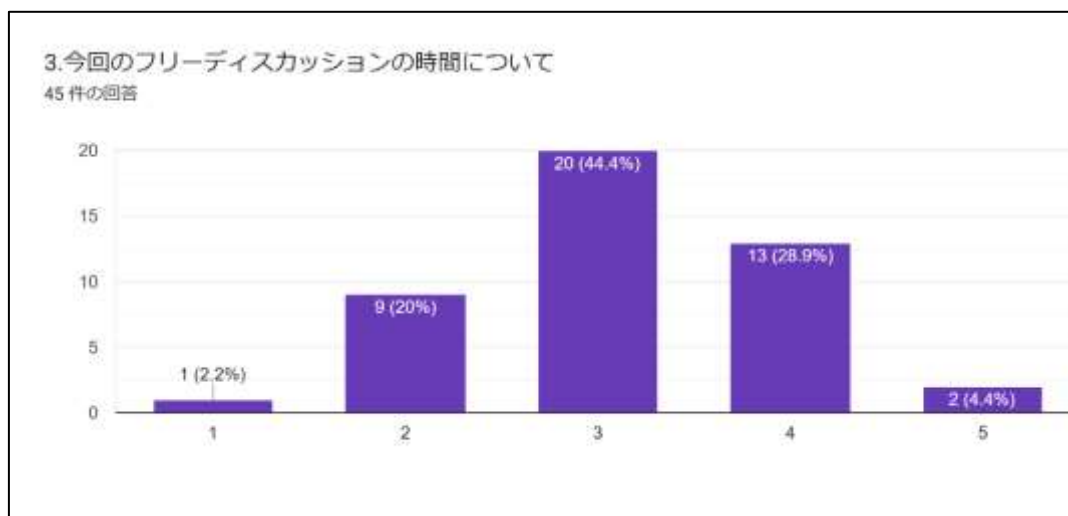
1. 今回のフリーディスカッションの構成について(1:不満～5:満足)



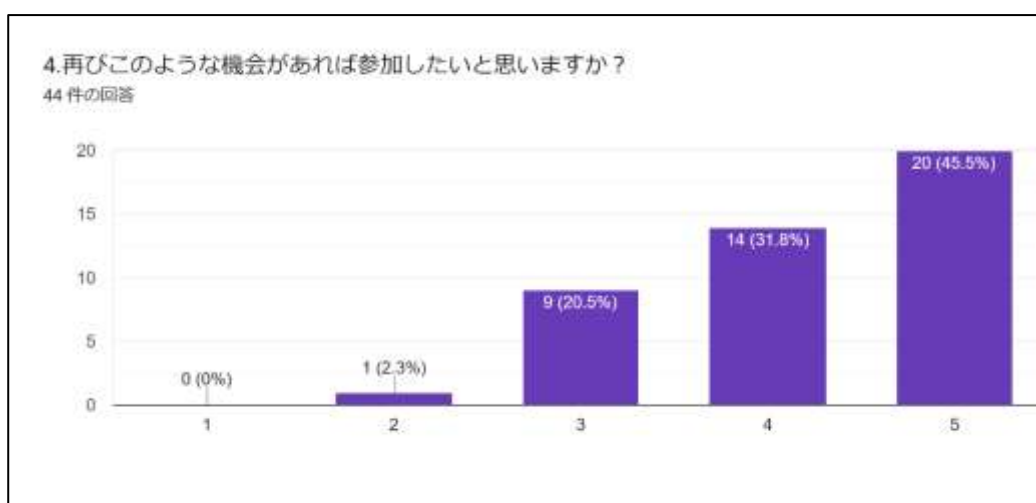
2. 今回のフリーディスカッションの開催方法(ワークショップ形式)について(1:不満～5:満足)



3. 今回のフリーディスカッションの時間について(1:短い~5:長い)



4. 再びこのような機会があれば参加したいと思いますか？(1:全く参加したくない~5:ぜひ参加したい)



5. 今回のテーマについて、さらにご意見があればお聞かせください。

次回は、もっと総監に特化したテーマを選んで意見交換をしましょう。
総監の方と意見交換が楽しかった。ぜひまたやってほしい！
知名度向上については業務独占資格にできるかが1つの鍵だと思います。また、総合技術監理部門がプロジェクトマネージャーレベルであることをPRすることが1つの方策かと思っています。
なし
テーマ？総監の資格活用とはいうものの活用できていないことを前提にそれを裏付けるようなネガティブな設問のように感じられた。そのためか、各グループの議論後の発表も消極的：総監という資格の積極的な意義と、それをどう活用すべきか(残念ながら、「効果的に活用できた」という話しは聞けなかった)という方向の議論がほとんど聞けなかったのが残念。 テーマ②総監の知名度向上というテーマは、技術士の知名度向上と同じような設問。このため、これまでの「技術士知名度アップ」と同じような議論に終始。 今回のフリーディスカッションの狙いも、結果をどう使っていこうとしているのか「技術士制度検討委員会」の意図に疑問を感じる。 もっと前向きな、積極的な方向に向けた課題設定をしてほしい。
今回のディスカッションの結果をお待ちしてます。
技術士(総合技術監理部門)と類似の資格との比較表を纏めることが必要と考えます。経済性管理のプロジェクト管理では、PMPに知名度で負けていますし、安全管理の労働安全では労働安全コンサルタントに知名度で負けています。そういった立ち位置を明確にすることで、総合技術監理の強み、弱みがわかって来ると感じます。強み弱みがわかれば活用検討がやりやすくなります。
他の20部門と同列に扱われるので総合技術監理部門の位置付けについて明確にするべき。差別化をしていかないと、技術を取りまとめる資格としての意味を持たないと思う。
総監の位置付けと社会・企業での活用はますます重要になってきていると思います。
全員参加的なワークショップ的な会議の利点もあるが、挙手して意見を言い合って議論する場面があっても良いかなと思いました、 会議終了後の懇親会は良かったと思います。
総監技術の活用事例を集めてはどうか。
今後どのように改善が進んでいくのか、また進捗状況や活動など展開されると活性化につながると思います。
今回の議論の内容が、その後どのように経過したか、わかるような仕組みがあるとよいと思いました。
総監部門は部会がなく、このような機会を増やしていただきたいと思います。
参加者にはそれぞれの経験があり、短いグループディスカッションではお互いに遠慮して言いたいことが言えない、あるいは個人のエピソード語りが長くなる等があった。ファシリテーター役の方より個人のエピソードを語る人が業界で上位、先輩に位置する(今後も仕事の付き合いの可能性がある)場合、ファシリテーターはその方に対して進行を調整できなかった

た。議論の結果を模造紙に書く方式は成果のまとめや調整を同時並行でするのに時間のロスである。

今回のディスカッションを通じて、現在の総監技術士の多くは組織に所属し、そこでの活動に留まっている現状が確認されました。しかし、昨今の働き方改革により、雇用形態の多様化が進んでいます。例えば、企業や公務員の副業解禁、フリーランスの増加といった流れが加速しており、今後、組織を超えて独立した立場で活躍する総監技術士の可能性が広がっていると感じました。

総監技術士が持つ豊富な経験と専門知識を、組織内にとどまらず、広く社会に還元するためには、官民連携の仕組み作りが急務と考えます。例えば、企業においては、不祥事や事故が発生した際に、総監技術士が第三者委員会のメンバーとして技術的観点から社会との信頼構築を支援できると考えます。また、スタートアップ企業支援においては、技術面に加え、企業ガバナンスや技術者倫理、安全管理の面でも支援を行うことで、質の高い創業支援が可能となります。

さらに、行政分野では、総監技術士がプロジェクトマネジメント経験を活かし、客観的な立場からトレードオフの検討に参画することで、実現可能性の高い政策推進を支える役割が期待できます。特に、公務員経験者による公的プロジェクト参加は「天下り」や「お手盛り」といった批判を受けやすい現状がありますが、公務員 OB/OG が総監技術士資格を取得することで、その能力が客観的に証明され、より積極的にその経験や専門性を活用できるようになることも期待できます。

皆さんからあったように、総監の位置づけをきちんと整理して、文科省へ提言していただきたい。

総監の人的ネットワーキングの拡大について

総監の制度設計に元々不足があったと理解した。技術士制度に必須な「部門」であり、改善を望む。

特にありません。

部門の技術士と総監の技術士の違いを明確にしていく必要を感じています。

総監メリット拡大化に発展させたい。

2 番目のテーマで、技術士そのものの知名度、総監の知名度を明確に分けて議論するとよかった

試験方法や技術士法の改定も含めて検討が必要では？

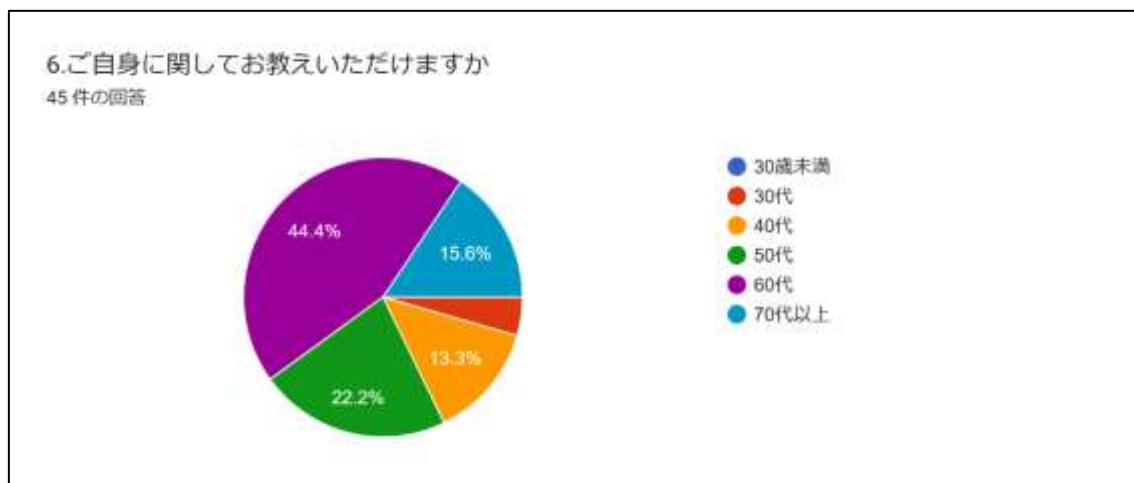
総合技術監理部門の国際的な資格との位置付けを明確にし、技術革新が進む中、技術士資格の更新制度を早急に立ち上げていただきたい。(受験した時と現時点の技術はかなり変わっている)

今後の討議、検討の過程をオープンにしてほしい。

実際にディスカッションから得られた回答が技術士会の制度委員会のなかで「どう活かされたのか」「どう参考とされたのか」アフター報告の展開をいただきたいです。

有意義なテーマであったと思います。継続実施を期待します。

6. ご自身に関してお教えいただけますか



以上

(公社)日本技術士会 技術士制度検討委員会